（基盤科目）

科目名	研究方法特別演習 VI 英語名：Special Seminar on Study Method VI	必修/選択	選択必修	
		単位数	2 単位	
		担当教員	平岡　麻里	

【授業概要】

本演習では、教育史の博士論文執筆を予定している学生が学問領域としての教育史学の特徴を理解し、調査・研究方法を知り、研究遂行能力を身に付けることを目的としている。はじめに歴史研究の基礎となる史料の種類や性質について学び、異なる史料を吟味し、そのエビデンスによって示される教育的観点は何かを検討する必要性を理解する。次に、そこから生じる方法論的な問題の議論を通じて、自身の研究課題の解明にどの史料を分析するのが最も適切であるかを調査の実現可能性（史料の入手可能性）も含めて検討し、その選択理由の論理的な説明を行う。当時に、これまで教育史研究で扱われてきた研究課題や最近の研究動向を検討し、自身の研究課題をそのなかに位置づけることを試みる。

【キーワード】

一次史料、二次史料、文献調査、史料批判、先行研究の検討

【授業の到達目標】

・教育史の研究・調査方法を学び、自ら選んだ研究課題に適切な方法を選択することができる
・自ら選んだ研究・調査方法について、合理的な計画を立て、遂行できる
・教育史学における国内外の研究動向を体系的に理解し、そのなかに自身の研究課題を位置づけることができる

【教育の方法】

スクーリングの実施【あり】　スクーリングのメディア受講【可】

【授業計画】

回	内　　容
1	オリエンテーション　本演習のねらい・進め方
2	教育史とは
3	研究方法（1）史料を読むということ
4	研究方法（2）社会調査と文献研究
5	研究方法（3）一次史料を扱うにあたって
6	研究方法（4）アーカイブ調査
7	研究方法（5）出版物、文学作品
8	研究方法（6）日記、手紙、自伝
9	研究テーマ（1）：教育制度と学校
10	研究テーマ（2）：教員・教員養成
11	研究テーマ（3）：ナショナリズムと教育
12	研究テーマ（4）：ジェンダーと教育
13	近年の研究動向（1）文化史としての教育史
14	近年の研究動向（2）トランスナショナルな展望

15	まとめと今後の課題
試験	

【履修にあたっての準備・履修上の注意点】
・初回スクーリング受講後は、指定したテキストを読み、教員が提示した課題を行っていく。
・教科書や参考文献は英語で書かれたものが中心となる。
・授業で検討する事例は担当教員の専門領域であるイギリスを扱うが、レポートおよび科目修得試験のテーマは学生自身の研究課題に即して設定することができる。

【スクーリングでの学修内容】
学修初期のスクーリングは、授業の目的や学修内容の概要、および学生が有する教育史上の課題や関心を確認するために行う。そのため、スクーリング前に、教科書・参考図書として提示した文献の概要を把握しておくとともに、自身が解決したいと考えている教育史上の課題について簡潔にまとめておく。スクーリング後は、教科書で各種史料の性質について学んだうえで、スクーリングと教科書学修を踏まえて自身の課題の解明に最も適した方法論を検討し、その成果をレポートにまとめる。

学修後期のスクーリングでは、自身の問題関心がどのような研究上の文脈に位置づくのかを明示するため、最近の研究動向や先行研究の検討を行う。スクーリング前に自身の研究課題と関連のある先行研究を可能な限り網羅的に収集し、スクーリングではその主なものについて内容の報告、およびそこで得られた知見が自身の研究課題へどのように反映できるかを議論する。スクーリング後は、この科目での学修全体の成果を踏まえて、科目修得試験に取り組む。具体的には、自身の研究課題の解明に最適かつ実行可能な研究方法とその選択理由、および先行研究を踏まえた自身の研究課題の意義を合理的に説明した上で、現時点での仮のサーチ・クエスチョンを設定する。

スクーリングはこの 2 つの時期を含み、合計 4 コマ 6 時間以上をめどに行う。

【評価方法】
合否については、研究計画・方法に関するプレゼンテーション・レポート（各 25%）、科目修得試験（50%）で評価する。

【教科書】
オルドリッチ, R. (2009)『教育史に学ぶ－イギリス教育改革からの提言－』知泉書館, 東京.
教育史学会（編）(2018)『教育史研究の最前線Ⅱ』立花出版, 東京.
McCulloch, G. (2004) *Documentary Research in Education, History and the Social Sciences*, RoutledgeFalmer, London.
McCulloch, G. (2020) 'Cultural history of education: Why and how?', *IJHE*, 10, 203-215.
McCulloch, G., Goodson, I., González-Delgado, M. eds. (2021) *Transnational Perspectives on Curriculum History*, Routledge, London.
※学修箇所は初回スクーリングで指定する。また、各学生の状況や研究テーマに応じて教科書を変更・追加することがあるので、購入前に教員に確認すること。

【参考図書】
岩下誠, 三時眞貴子、倉石一郎、姉川雄大 (2020)『問いからはじめる教育史』有斐閣, 東京.
Aldrich, R. (2006) *Lessons from History of Education: The Selected Works of Richard Aldrich*, Routledge, London.
オルドリッチ, R. (2001)『イギリスの教育：歴史との対話』玉川大学出版部, 東京.
Depaepe M. (2010) 'The ten commandments of good practices in history of education research' *Zeitschrift für Pädagogische Historiographie*, 16, 31-34.
Dobson, M., Ziemann, B. (2009) *Reading Primary Sources: The Interpretation of Texts from Nineteenth- and Twentieth-century History*, Routledge, Oxon.
教育史学会（編）(2007)『教育史研究の最前線』立花出版, 東京.
Rury, J. L., Tamura, E. H. eds. (2019) *The Oxford Handbook of the History of Education*, OUP, NY.
Fitzgerald, T. eds. (2020) *Handbook of Historical Studies in Education: Debates, Tensions, and Directions*, Springer, Singapore.
山﨑洋子 (2018) 「『インターナショナルからトランスナショナルへの交錯史』探訪—イギリス教育史家の葛藤と矜持—」『教育学研究』 85, 4, 493-505.

【教員メッセージ】 　教育史は文献に基づく歴史研究ですが、近年では文字記録だけではなく画像や音声などの非文字記録、あるいはモノや空間なども調査対象となり、またテーマも広く社会や文化のなかで教え学ぶ活動すべてを扱うようになってきています。しかし、思うような史料が見つからない（ない？）、あってもアクセスが困難なこともあり、史料探しは一筋縄ではいきません。トラブルも楽しみながら、検討と議論を重ねつつ、時には代替案を考えるなどの臨機応変さも求められる your Ph.D. journey の第一歩を一緒に踏み出しましょう。
【備考】 特記事項なし